

	成果	課題	夏休み明けからの手立て
授業づくり	・「最後まで聴く」を全校で徹底して取り組んだことで、話の途中で口をはさむなどせず、最後までしっかり聴くことができる子が増えた。 ・授業中に誰とでも交流することができる子が多く、子供たちは「対話することを楽しい」と感じている。 ・子供たちが、上の学年の授業を見合う機会を設定したことで、学校で身に付けさせたい「話す」「聴く」姿を具体的に学ぶ場となった。	・自分の考えに理由をつけて話したり、相手に伝わるように話したりすることが苦手な子が多い。（話す力を身に付けさせていきたい。） ・自分のクラスの子供たちに、どんな対話の力を身に付けさせたいのか再度考える必要がある。 ・「楽しい授業」を心がけ、授業がどの子も活躍し、認められる場であるようにする。	・授業中は、教師の出番（教師が話をする時間）をできるだけ減らし、子供たち同士が対話をする場面を増やしていく。 ・「最後まで聴く」「自分の考えと比べながら聴く」「理由をつけて話す」「わかりやすく話す」など、各クラスで目標にしている対話ができている子を価値づけ、認め、子供たちに対話の楽しさをさらに実感させていく。
生徒指導	・「学校が楽しい」と感じる子が多い。 ・昼の放送で取り組んだ「気づきの星レベルアップ作戦」により、子供たちの「あいさつ」や「静かな廊下歩行」が少しずつレベルアップしている。	・困ったことがあった時に、相談できないでいる子がいる。 ・重点目標である「自分色」や「自分のよさ」を見つけていない子、答えられない子がいる。 ・教師から子供へだけでなく、子供同士でお互いのよさを伝え合うことができるとよい。	・自分のクラスの子供だけでなく、他学年の子供にも目を配ったり声をかけたりし、全職員で子供の力を伸ばしていく。 ・引き続き「気づきの星レベルアップ作戦」を実施し、子供たちのよさを価値づける機会を設ける。
コミュニティスクール（地域との関わり）	・「地域の人と学ぶ学習は楽しい」と感じている子供は多く、地域の方と一緒に学習することは非常に効果がある。 ・地域の方に教えていただくことや助けていただくことは多く、教職員にとっても地域の方との学習は有意義な時間である。	・「コミュニティスクール」という言葉と、「地域の方との学習」「地域の方の協力」という言葉が繋がっていることが、定着していない。 ・学校に協力してくれる地域の方の年齢層が高齢化しているため、若い方や保護者にも一緒に活動してもらう機会をつくりたい。	・引き続き、おたより等でコミュニティスクールの活動を発信していく。 ・授業や活動の内容を伝え、地域の方だけでなく、保護者の方にも、ボランティアの依頼をしていく。